

血管外漏出



血管外漏出

血管外漏出とは、点滴をしているところから、抗がん薬がもれて、痛くなったり、赤くなったり、腫れたりすることを言います。抗がん薬がもれると、正常な細胞を傷つけてしまうことがあります。そのため、安全に治療を続けていけるように、皮膚の異常を早めに発見して、すぐに対応することが大切です。

点滴を受けるときの注意点

- 点滴中は、腕は動かしてはいけないと思われるかもしれませんが、そんなことはありません。動かしても生活に支障がないように、関節を避けて針を刺します。針も柔らかい管を使用します。
- 採血の後に抗がん薬を投与する場合は、採血とは反対の腕で点滴をするようにします。採血と点滴を同じ腕で行うと、採血をしたところから血管外漏出を起こしてしまう危険があります。
- 治療中には医師、看護師が点滴の針が刺してある所を、何度か確認・観察します。トイレやシャワーの後などは特に注意が必要です。
- 針やチューブを固定しているテープがはがれてきたら、再度固定をします。この固定のずれによって、血管外漏出が起こる可能性があるからです。気が付いたら看護師へお知らせください。
- 針の周りの皮膚の痛み、赤み、腫れの1つでも気になる症状があったら、ただちに看護師にお知らせください。
- 抗がん薬の種類によって対応策が異なりますので、医師の診察のもと、適切な対応をさせていただきます。緊急の受診や処置が必要となることもありますので、外来通院治療中に症状に気付かれた場合は、病院に連絡をしてください。

- 以下に示す「特に注意が必要な抗がん薬」の場合は、点滴をしている腕はなるべく安静に保つようにしてください。シャワーや食事の時間に重ならないように、点滴を始める時間を調整します。



特に注意が必要な抗がん薬

一般名	商品名
マイトマイシンC	マイトマイシン®
アクチノマイシンD	コスメゲン®
ビクリスチン	オンコビン®
ビンブラスチン	エクザール®
ビンデシン	フィルデシン®
ビノレルビン	ロゼウス®
パクリタキセル	パクリタキセル®
パクリタキセル アルブミン懸濁型	アブラキサン®
ドセタキセル	ドセタキセル®
カバジタキセル	ジェブタナ®
ドキシソルピシン	ドキシソルピシン®
ダウノルピシン	ダウノマイシン®
ピラルピシン	テラルピシン®
エピルピシン	エピルピシン®
イダルピシン	イダマイシン®
アムルピシン	カルセド®
トラベクテジン	ヨンデリス®
オキサリプラチン	エルプラット®
トラスツズマブ エムタンシン	カドサイラ®

R5年12月現在採用薬剤